

日本接着学会誌 原稿執筆の手引き

1. 原稿の書式

言語は日本語または英語とする。日本語の場合には常用漢字を用いる。英数字は半角とする。原稿はWordあるいはそれに準じるアプリケーションにより作成する。A4用紙縦、天地左右に25 mmのマージンを取る。英語の場合には“Notes for Authors”を参照する。

2. 原稿の形式・長さ

2.1 研究論文 (Original Paper)

論文の構成は、要旨、緒言、理論、実験、結果、考察、結言とし、このうちいずれかの項目を省くことは可能だが、要旨を省くことはできない。要旨は、論文に記載された新しい理論や実験方法、実験結果の概要を、新規な点に重点を置いて具体的に原則400字以内で記載する。Figure, Table, Schemeは全て英語で記述する。原稿の長さは刷り上り5頁程度（図、表、引用文献を含む）が望ましい。刷り上がり1頁は文字のみの場合、2,400文字程度である。原稿の1枚目に〔研究論文〕と記載する。

2.2 技術論文 (Technical Report)

原稿の形式、長さは研究論文に準じる。原稿の1枚目に〔技術論文〕と記載する。

2.3 ノート (Note)

原稿の形式は研究論文に準じる。原稿の長さは、原則として刷り上り2頁程度とし、記述は特に簡潔であること。原稿の1枚目に〔ノート〕と記載する。

2.4 研究速報 (Short Communication)

原稿の形式は研究論文に準じる。原稿の長さは、原則として刷り上り2頁程度とし、記述は特に簡潔であること。原稿の1枚目に〔研究速報〕と記載する。

2.5 総合論文 (Comprehensive Paper)

原稿の形式は研究論文に準じる。原稿の長さは原則として刷り上り10頁以内が望ましい。原稿の1枚目に〔総合論文〕と記載する。

2.6 総説 (Review)

原稿の長さは刷り上り5～6頁程度が望ましい。原稿の1枚目に〔総説〕と記載する。

2.7 解説 (Commentary)

原稿の長さは刷り上り5～6頁程度が望ましい。原稿の1枚目に〔解説〕と記載する。

2.8 学位論文紹介 (Introductory Article –Doctor Thesis)

原稿の長さは刷り上り2頁とし、原稿の1枚目に〔学位論文紹介〕と記載する。また、所属（大学または企業）に関しては、執筆者の意向により選択し、学位取得の大学、取得年月、指導教員名および所在地を明記する。

2.9 トピックス、報告、研究所紹介、その他

原稿の長さは刷り上り1～2頁とする。編集委員会

が必要と認めた場合にはその限りではない。

3. 英文要旨 (Abstract)

日本語で記述された研究論文、技術論文、ノート、研究速報、総合論文、総説、解説の原稿には、本文のほか、英文要旨（200語程度）を記載する。英文要旨には、題名、著者名、所属機関の公称英訳名および所在地を明記する。英文要旨を読んだだけで主旨が正確につかめるように記載する。

4. キーワード (Keywords)

英文要旨のつぎに、英語キーワードを5個程度記載する。

5. 参考資料

審査の際、参考になる別刷などの資料があれば添付する。

6. 本文の書き方

6.1 表紙

原稿の1枚目には題名、著者名、著者の勤務先あるいは所属機関の公式名および所在地を記載する。

6.2 学会発表等の記載

年会、講演会等で発表済みの研究については、原稿の末尾に発表年月日と講演会名を記載する。

6.3 本文の区分け

本文の区分けは1, 1.1, 1.1.1などを用いて、大見出し、中見出し、小見出し等を明瞭にすることが望ましい。

6.4 文章、文字、固有名詞、商品名

文章は原則として常用漢字、現代かなづかいにより「である」体を用いて簡潔に記す。句読点には全角の「，。 」の組み合わせを用いる。段落の頭は1文字下げる。外国の人名、会社名、地名などの固有名詞は原則として原語で書く。商品名は、その物質名を表示することができない場合に限り使用し、この場合、その商品のメーカー名等を商品名の次にかっこで囲んで表示する。

6.5 物質名、用語

物質名で現在慣用されているものは、日本文字で記す。用語は、化学便覧(日本化学会、丸善)、学術用語集(文部科学省)などを基準とする。化合物の命名は原則としてIUPAC命名法に従う。英文を用いる場合は、Chemical Abstracts, IUPAC法またはISO 1382 Rubber Vocabularyを参考にする。「IUPAC命名法」や「ポリマーの化学式や構造式」は以下のwebsite等を参照する。

[http://www.scc.kyushu-](http://www.scc.kyushu-u.ac.jp/Yuki/classes/past_materials_files/basic_org1.pdf)

[u.ac.jp/Yuki/classes/past_materials_files/basic_org1.pdf](http://www.scc.kyushu-u.ac.jp/Yuki/classes/past_materials_files/basic_org1.pdf)

例：methane, chlorobenzeneはメタン、クロロベンゼン。元素名や簡単な化合物は、通常用いられている和名で記載する。

日本接着学会誌 原稿執筆の手引き

C₆H₆, CH₃CHO はベンゼン, アセトアルデヒド, O₂, H₂, H₂SO₄は酸素, 水素, 硫酸と記す。

6.6 量記号, 数学記号

量記号, 数学記号は, 国際的に慣用されている JIS Z8201, 8202 に則して書くことが望ましい。物理量の名称, 単位, 下付ならびに上付はローマン体で記し, 物理量記号はイタリック体にする。下付文字が物理量の一部である場合には下付文字もイタリック体にする。

例

T_g (ガラス転移温度), T_m (融点), C_p (定圧熱容量)

6.7 単位

単位は, 原則として SI 単位に従い, 必要に応じて 10¹²:T (テラ), 10⁹:G (ギガ), 10⁶:M (メガ), 10³:k (キロ), 10⁻¹:d (デシ), 10⁻²:c (センチ), 10⁻³:m (ミリ), 10⁻⁶:μ (マイクロ), 10⁻⁹:n (ナノ), 10⁻¹²:p (ピコ) 等の接頭語を付す。m 以外に cm, μm などを用いてもよい。それ以外にも慣例上, 以下の単位は定義せずに用いてもよい。

長さ: m (基本単位), Å
 面積: m² (基本単位), Å²
 体積: m³ (基本単位), L
 質量: kg (基本単位), g, ton
 時間: s (基本単位), min, h, d, year
 温度: K (基本単位), °C
 角度: rad (基本単位), ° (度) (ただし, 35°30' (分) は 35.50° と表す)
 力: N (基本単位, kgf は使用しない)
 圧力・応力: Pa (基本単位)
 粘度: Pa·s (基本単位)
 エネルギー・熱量: J (基本単位), eV
 物質質量: mol (基本単位)
 濃度: %W/W (質量分率), %W/V, %V/V, mol/L, M (モル濃度), phr (parts per hundred resin by weight)
 電気・磁気・その他: A (電流: アンペア), V (電圧: ボルト), Ω (電気抵抗: オーム), W (仕事率: ワット), F (電気容量: ファラド), C (電荷(電気量): クーロン), S (電導度: ジーメンズ), Hz (振動数・周波数: ヘルツ), T (磁束密度: テスラ), cd (光度: カンデラ), pH (水素イオン濃度), RH (相対湿度), rpm (回転数) など

6.8 字体

日本語は, 全角等幅フォント, 英字は半角フォント, 数字は半角のアラビア数字を使用する。本文, 表のフォントには MS 明朝, Times または Times New Roman を, 図のフォントには MS ゴシック, Arial または Helvetica を推奨する。

6.9 数式

数式の表記は, 式として独立したものは

$$\frac{a+b}{c+d} \dots (1)$$

のように式番号と共に, 文中に出てくるものは (a+b)/(c+d) のように記す。

7. 図, 表, スキーム

7.1 図, 表, スキームの説明

簡潔な英文とし, 図, スキームの説明は図の下に, 表の説明は表の上にそれぞれタイトルを記し, 説明は図, 表の下に記す。単位は, 軸の説明の後に () 内あるいは / で区切って示す。

7.2 図, 表, スキームの番号

Fig. 1, Fig. 2..., Table 1, Table 2..., Scheme 1, Scheme 2... のように記す。

7.3 用紙

図, 表, スキームの線の太さ, 数字, 符号および字句の大きさは刷り上りサイズやバランスに配慮する。刷り上がり時に, 2段組の1段に納まるサイズが好ましい。図, 表, スキームはモノクロあるいはグレースケールで印刷される。カラー印刷を希望する場合には, その旨事務局に連絡する。この場合, カラー印刷に必要な実費を支払う必要がある。

例

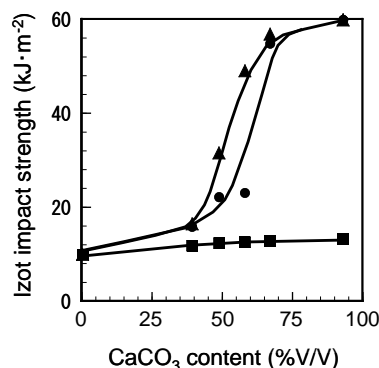


Fig. 1 Effect of CaCO₃ content on the Izod impact strength of PVC/CPE/CaCO₃ with various CPE contents of 5 (●), 10 (■) and 20 (▲) % V/V.

Table 1 Polymerization of monomer 1^{a)}

Temp (°C)	Time (h)	Yield ^{b)} (%)	M_n ^{c)}	M_w/M_n ^{c)}
50	8	91	15,000	1.56
60	8	85	20,600	2.87
70	4	78	12,300	3.35
80	4	80	11,500	3.58

^{a)} Conditions: [1]₀ = 1.0 M [catalyst] = 0.05 M in toluene.

^{b)} Insoluble part in hexane. ^{c)} Determined by eluted with THF, polystyrene calibration.

日本接着学会誌 原稿執筆の手引き

8. 引用文献

引用文献は、以下の例のように記載し、本文中の該当人名あるいは事項の右肩に³⁾のように通し番号をつける。記載順序は、著者名、雑誌名もしくは書籍名、巻数、開始ページ、(年号)とし、カンマで区切り、ピリオドで終了する。ただし文献、雑誌以外はページの前に p. を入れる。巻数は太字で記載し、年号は()で、書名は“ ”でかこむ。書籍には出版社名を記載する。欧文雑誌の略名は、化学便覧または“Chemical Abstracts”に従い、イタリックで記述する。和文雑誌の略名は“日本化学総覧”に従う。著者名は全員記し、漢字の場合は姓名、欧字の場合はイニシャルをつける。著者名は、漢字、欧字に関わらずカンマで区切り、and は用いない。著者自身の未印刷の研究を引用する場合は、引用文献として審査終了の場合は「印刷中 (in press)」, 審査中の場合は「投稿中 (submitted)」と記し、著者名、投稿誌名を付記する。

日本接着学会誌に掲載された日本語で記述されている研究論文、技術論文、ノート、研究速報、総合論文、総説、解説等の文献を引用する場合には例1の通り英語・日本語を併記し、当該文献が英語で記述されている場合には例2の通り英語のみで記載する。

例

文献

- 1) T. Secchaku, H. Nenchaku, J. Namba, *J. Adhesion Soc. Jpn.*, **52**, 789 (2016). (接着太郎, 粘着花子, 難波次郎, 日本接着学会誌)
- 2) G. Shi, L. T. Drzal, *J. Adhesion Soc. Jpn.*, **41**, 42 (2005).
- 3) 岩下 睦, 第31回日本木材学会大会要旨集, p.233 (1981).
- 4) 竹本喜一, 三刀基郷, “接着の化学”, 講談社, p. 102 (1997).
- 5) 日本接着学会編, “接着ハンドブック第3版”, 日刊工業新聞社, p. 855 (1996).
- 6) S. R. Culler, H. Ishida, J. L. Koenig, *J. Colloid Interface Sci.*, **109**, 1 (1986).
- 7) L. F. M. da Silva, R. D. Adams, Proceedings of EUROADH 2002, p.31 (2002).
- 8) E. P. Plueddemann, “Silane Coupling Agents, 2nd edition”, Plenum Press, New York (1991).
- 9) T. Suzuki, K. Sato, S. Tanaka, U.S.P. 1 234 567.
- 10) 接着太郎, 粘着花子, 特許第 1 234 567 号 (2016).

9. 脚注

必要に応じて脚注を1., 2., 3. . . . の通し番号で記載してもかまわない。